

最優秀賞

「失敗のその先にあるもの」

学校法人三育学院 函館三育小学校 6年

佐藤 桔平

「本当に申し訳ありませんでした。」ぼくの両親が同級生と、その子の母親に頭を下げる姿が今でも忘れられない。

ぼくは、四年生の時、不注意から同級生にけがをさせてしまった。同級生に痛い思いをさせてしまった事への後悔と両親の気持ちを考えると胸が苦しくなる。ぼくは、考えるより先に行動してしまう所がある。落ちこむぼくに、母は「子供は、失敗をして成長していくんだよ。大丈夫。でも同じ失敗は、くり返さない様に気をつけるんだよ。」と言い、晩ごはんには、ぼくの好物のイカの煮物を作ってくれた。父は、何も言わなかった。言葉ではげましてくれる母と行動で道しるべになってくれる父、正反対な両親の愛に包まれて、ぼくは大人になるための修業をしている。心強いし、ぼくの居場所を作ってくれる両親に感謝している。

でも、四年生の時の出来事は、辛くて考える事いふたをしていた。平気なふりをしていたけど、二年間、ふたの下では、ずっとモヤモヤしていた。ずつ

と逃げていた。

ぼくは、今回、重いふたを開け、あの時の失敗と向きあい、自分の思いを文章にする事で心が軽くなった。時間がたった事と書く事で気持ちの整理が出来たからだと思う。

そして、わかった事がある。自分の失敗の責任をとれる様になる事、それが大人になるという事。親になるという事は、子供の失敗の責任も背負うという事。今は、どうしたら、そうできるのか考える事が大切だ。

この先も、ぼくは、また失敗してしまう事もあるだろう。辛くなったら、この作文を読みかえし、自分と向きあいたい。

失敗のその先の責任をとれる大人になるために、ぼくの修業は、まだまだ続く。ぼくは、今、十一才。いろいろな事に挑戦し、なりたい自分に成長していきたい。

「頑張れ、桔平!!」